

# ね、この本よんだ？



2020年度



図書館で発行している『としょかん通信』でご案内した  
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた  
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても  
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



## 『わたしのちいさないもうと』

みうらとも／文・絵  
岩波書店

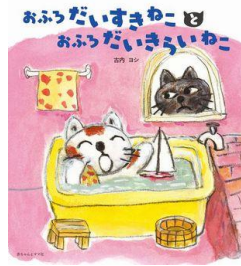


もしもわたしにいもうとがいたら、おかあさんのおいしいカップケーキをわけっこできる。もっとたくさんいもうとがいたら…。ひとりっこの女の子が想像の中で、どんどん増えていく妹と、「こんなことして遊ぼう、あんなことしてみたい」と夢見るかわいらしい絵本です。

## 『おふろだいすきねこと』

おふろだいきらいねこ』

古内ヨシ/作  
赤ちゃん和妈妈社



ねこっておふろは、すきなのかな…？おふろだいすきねこのポッポとだいきらいねこのドンタは、おふろだいすきねこのポッポとドンタになりました。一登場するねこの可愛い表情を味わい、この絵本を通して、親子のコミュニケーションの場としてお風呂を楽しんでください。

## 『パンフルートになった木』

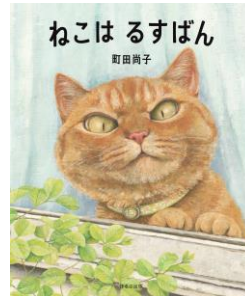
巢山 ひろみ／文  
こがしわ かおり／絵  
少年写真新聞社



“被爆樹木”というのを知っていますか？被爆樹木とは、原爆の爆発した中心地から、約2キロメートル以内の場所で生きのび、ふたたび芽吹いた木のことで。このお話は、そんな生きて平和の大切さを伝えた被爆樹木が、パンフルートの笛に生まれ変わり子どもたちとともに歌い続けた実話をもとに作られています。今も受け継がれているその音色に、絵本を通して触れてみませんか？

## 『ねこはるすばん』

町田尚子／作  
ほるぷ出版



人間が学校や仕事に行っている間、ねこは家でのんびりできていいなあ。なんて思ったことはありませんか？ところがどっこい！ねこも毎日忙しいんです。今日も人間が出かけたら、タンスの奥からねこの国へくりだします。

## 『おおきくなりすぎちゃったじゃがくん』

まるやまなお／作  
みらいパブリッシング



ジャガジャガゴロゴロ、おいしいじゃがいもが土から出てきます。でも、じゃがくんは「じゃが～じゃが～」といびきをかいて眠ったままです。やっと目を覚ましたじゃがくんは、大きくなりすぎておなべに入りません。固すぎて包丁も折れてしまいます。そこで食べてもらえるところをさがすことにしたじゃがくん。食べてもらえるところを見つけられるでしょうか？

## 『ラブレターをもらったら』

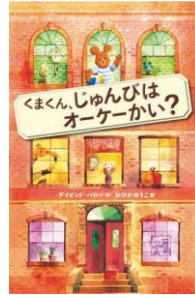
アニカ・アルダムイ・デニス／文  
ルーシー・ルース・カミンズ／絵  
石井 睦美／訳  
BL出版



ハリネズミくんは、広場へ向かう道で手紙を拾いました。「あなたのことがだいすきってこと、知っている？」ラブレターだと思ったハリネズミくんは、すっかりごきげんに。ところが、その後ラブレターを落とし、今度はそれを拾ったウサギちゃんが…。微笑ましい勘違いが繰り返され、みんなは大切な友だちの存在に気づきます。ラブレターがもたらすあたたかな幸せにあふれたお話です。

## 『くまくん、じゅんびはオーケーかい?』

デイビッド・バロー／作  
おびか ゆうこ／訳



今日からパパとママとうみへ旅行のくまくんはうきうきわくわく。「くまくん、じゅんびはオーケーかい?」と聞かれたくまくんは「あっ!」とアパートのみんなに貸したままの物を思い出しました……。  
カラフルな色遣いがたのしい絵本です。

## 『かべのあっちとこっち』

ジョン・エイジー／作  
なかにし ちかこ／訳  
潮出版社



大きなかべで仕切られたあっちとこっち。あっちには猛獣がいる。だとかべのおかげでこっちは安全。そのうえあっちには、こわーい人食い鬼もいるけれど、かべのおかげでこっちは来れない。かべがあつてよかったなあと安心している騎士だけれど、その足元には水が迫ってきている！さあ、どうなる？あっちはほんとうに危険なの？

## 『せんそうがやってきた日』

ニコラ・デイビス／作  
レベッカ・コップ／絵  
長友 恵子／訳  
鈴木出版



当たり前だと思っていた日常がある日突然壊される、この悲しみと恐ろしさは絵本を通して痛いほど伝わってきます。ひとりぼっちになってしまった女の子の絶望感……。今自分が何を感じ、どんなことを考えたのか。絵本を読んだ後にその感情をしっかり受け止める。子どもたちには、そんな力がきつとあるのだと思います。

## 『どうしてなくの?』

フラン・ピンタデーラ／文  
アナ・センデル／絵  
星野 由美／訳  
偕成社



「ぼくたちはどうしてなくの？」子どもにきかれたおかあさんはこたえます。「そうね「なく」にはいろいろな「なく」があるの」かなしいとき、ただなきたくてなくとき、しあわせなとき……。子どもから大人まで、人は誰でも様々な理由で泣きます。そんな、「なく」ことや「なみだ」について、ちょっと考えてみるおはなしです。

『となりのアブラくん』

黒川 裕子／作  
宮尾 和孝／絵  
講談社



僕達のクラスに転入してきたアブラくんは、パキスタンからやって来たイスラム教徒の子。イスラム教徒は豚肉が食べられないからお弁当が多いし、学校でもお祈りの時間をやらなくちゃいけないし、なんだかちょっと変わっている。そんな彼のお世話係になった晴夜は、宗教の違いを超えて自分と他人を認め合うことを知り成長していく。

『そのときがくるくる』

すずきみえ／作  
くすはら順子／絵  
文研出版



一年生のたくまは、がっこうがはずき。だけど、きれいなすがでる日はちがう。おじいちゃんは、「いまはきれいで、いつかきつとおいしく食べられるときがくるさ。」と言うけれど、ほんとうかな？きつと多くの人のもっているきれいな食べもの。でもこんなふうに思えたら、きれいなものも少しだけ、だいじょうぶと思えるようになるかもしれません。

『こぐまと星のハーモニカ』

赤羽じゅんこ／作  
小池アミイゴ／絵  
フレーベル館



ともだちのたつくと大ゲンカしたゴウは夜になってもモヤモヤしてねむれません。いろいろしてあそぼうねって約束していたのに……。そのとき窓をトントントン、トントントンとたたく音がしてカーテンを開けるとびっくり！いっぴきのこぐまが立っていました。すぐにこぐまと仲良くなったゴウですが、お父さんやお母さんにはこぐまが見えてない？！こんな友達がほしくなる本です。

『ぼくのとうさん わたしのおかあちゃん』

さくら文葉／作  
フロネーシス桜蔭社



ぼくの父さんは市の清掃の仕事をしている。とてもくさいし、暑いし、残飯の水を浴びてしまったり、大変な仕事だ。そんな父さんをウルトラマンみたいだと誇りに思う一方、友達にバカにされて父さんを選けてしまい、心の葛藤を抱えたぼく……。親の仕事モチーフに、実際の子どもの詩に着想を得た「父」と「母」の二つの物語です。

『神様のパッチワーク』

山本悦子／作  
佐藤真紀子／絵  
ポプラ社



—おれには、お母さんがふたりいる。ひとりは今のお母ちゃん。赤ちゃんのときから育ててくれているお母さんだ。もうひとは、うんでくれたお母さん— 子どもの視点で、特別養子縁組というテーマを描いている作品。家族にとって大切なものとは、いったい何でしょうか？

『もっと知りたいさくらの世界 1』

勝木 俊雄／監修  
汐文社



暖かい春がやってきましたね。日本ではさくらが咲き誇り、花を見て楽しむお花見が行われます。このさくらにはいろんな品種があるのを知っていますか？「ソメイヨシノ」や「ヤマザクラ」などがあり、地域によって見れるさくらも違うようです。さくらの1年の様子を通して、さくらがどんな木なのか知れる1冊です。

『こどもたちと楽しむ

知れば知るほどお相撲ことば』

『おすもうさん編集部』／編著  
ベースボールマガジン社



「揚げ足を取るなよ」や「あいつの方が一枚上手だな」など、ふだん何気なく使っているその言葉、お相撲から生まれた言葉だったんです。相撲は、古くからある日本の伝統的な競技であり、大切な文化でもあります。そんなお相撲が由来の言葉や、相撲界だけで使われる専門用語や俗語などを楽しいイラストとともに紹介します。

『どっち?どっち?アイヌはどっち?』

なににぬこ／ぶん・え  
アイヌ民族文化財団



「アイヌ」とは日本の先住民族のことで、アイヌの言葉で「人間」という意味です。ハンバーガーとピザ、具たくさん汁物と魚、どちらがアイヌの食べ物でしょう?「オハウ」という食べ物はどんな料理でしょう? 住居や踊り、楽器などアイヌと世界の伝統や文化について、学校の先生やお友達、おうちで家族と、どっち?どっち?と楽しみながら学べるクイズ形式の知育絵本です。

『ハブラシのサミー』

M・G・レナード／文  
ダニエル・リナリー／絵  
青山南／訳



ソフィアはサミーと名付けた黄色いハブラシが大好きでした。ところが、毛先がグシャグシャになってしまったサミーは捨てられてしまいます。ソフィアのところに帰るため、サミーはいろいろなプラスチックと出会いながら旅をしています。今問題になっているプラスチックごみについて、身近なものからいっしょに考えてみませんか?

『パイロットの一日』

WILLこども知育研究所／編著  
保育社



「暮らしを支える仕事見る知るシリーズ」に『パイロットの一日』が登場しました。パイロットは空の上で航空機を操縦するプロフェッショナルなお仕事です。航空機を操縦するためにどんな学校に行くの?どんな知識が必要?1日のスケジュールは?空の上にはなにを持っていくの?この本がみなさんの「知りたい!」に答えてくれます。